（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を玄関に掲示し、周知をはかっている。	法人の理念「共に歩む」と法人のコンセプトをホーム玄関に掲げ、来訪者に示している。職員も朝・夕の出退勤時に必ず掲示を確認し気持ちを新にしている。法人の新人研修や中途採用者研修では法人理念の周知徹底を図っており職員もその主旨を言葉で語ることができ、日々のそれぞれの業務の中で実践している。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの畑の方との交流が縁で、毎月紙芝居のボラにきていただいたり、秋祭りに地域の皆さんをお招きして、一緒に楽しんだり隣組の親子の花笠踊りを利用者とコラボでアトラクションに出演すべく、練習をしています。	毎年10月末に行われる地域文化祭にはホームからも出品しており、今年も各利用者の作った押し花をラミネート加工したタペストリーを出品する予定である。利用者もおにぎり持参でその文化祭の演芸等を見に出かけている。地域の方とふれあったり、認知症への理解を深めていただくために開催している11月のホーム秋祭りも地区の方に回覧板でご案内し大勢の方が来られている。今年度も豚汁や手作りクッキー、ドリンクのふるまい、アトラクションなどを企画している。日頃から手芸、ハーモニカなどのボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の老人会長さんに、集まりの折にでも認知症のお話をさせて欲しい旨お伝えし、検討していただいています。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果や運営状況の報告もその都度行い、助言をいただいて運営にいかしている。	原則的には2ヶ月に1回、奇数月の第3水曜日15時30分から実施している。家族代表、老人会代表者、民生委員、区長、町担当部署職員、法人副理事長等が参加している。防災対策や利用者状況、活動状況などについて情報交換、質疑応答を重ねている。いただいた貴重な意見等については職員に伝えサービス向上に活かしている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況を随時報告したり、待機者の情報をいただく等々、情報交換に努めている。	周辺市町村の担当部署とは待機者情報や利用状況についての照会など、折に触れ連絡や相談をしている。また、介護認定の更新には広域連合や隣接の市町村の担当部署から調査員がホームに来訪し、家族同席の上、ホームから情報を提供したりその後についての検討を加えている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠が却って利用者様のストレスになってしまうので、玄関だけは施錠しているが、外出の希望があれば、職員がいつでも付き添う。玄関以外はすべてオープンになっており両棟の行き来も自由。身体拘束についての勉強会もしている。	法人内に各種委員会があり、拘束委員会での研修や報告などで「拘束をしないケア」について全職員が学習をしている。職員も拘束については正しく理解をしており実際にそのような事例は見当たらない。開設からの利用者が8割以上おり、2年目を迎え落ち着きを見せており、外出傾向の方も僅かである。外出傾向の利用者も一人で出掛けホームから見渡しのきく主要幹線道路まで辿り着くと折り返しホームに戻ってきており職員の同行を必要としていない。。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	教育委員を中心に虐待防止の勉強会を開いている。また、利用者様と職員の相性・関係性に注意を払い、虐待の芽を未然に摘むよう配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところは必要ないが、必要時には活用できるように、機会をとらえて理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時に丁寧な説明をこころがけている。質問しやすい雰囲気を大切にし、不明な点があれば、いつでも電話を下さいと申し添えている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見を拾えるようにホワイトボードを設置してある。ご家族とは、面会時や、必要時の電話でコミニュケーションをとり、なんでも言い合える関係を作っており、頂いた意見を運営に活かしている。	平均介護度も2.4と総体的に軽く、利用者はその時々の意見や思いを表出できている。家族の来訪も頻繁で、利用者の健康状態や整容などについて意見や要望を気軽に伝え職員も快く受け入れている。年2回、春の環境美化の日や秋祭等に合わせ家族会が開催されており、協働作業や行事を通じ同じ活動をすることで意思疎通が細やかになっている。年4回、家族宛にホームだよりを発行しコミュニケーションを取るのに役立てている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	１５日会という職員会が、意見交換の場になっているが、個々で意見・提案を持ってくる職員も多く、良く聞いて反映するよう努めている。	「15日会」と称して毎月15日の16時から職員会議を開いており、業務改善他の議題に沿って進め、利用者のカンファレンスも行っている。時には長時間に及ぶため軽食をとることもあるが、職員は有意義な会議として積極的に参加している。開催日の2～3日前に議題が示され、当日職員が意見や要望を発表しやすいように工夫している。職員ごとに「目標管理カード」を作成し、見直しも兼ね、年2回、法人役員との面接が実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境は特に大切だと認識しており、職員の意見・提案をもとに、みんなで考えて業務改善を重ねている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に合った法人内外の研修の受講をすすめいる。また、モチベーションが上がる声かけに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上伊那介護事業所連携事業を利用し、職員が同業者と交流する機会をつくっている。他施設の職員から、刺激をもらい日々のケアの向上につながっていると思う。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に関する情報を収集するほか、日常の地道なケアを誠実に積み重ねながら、信頼関係をきづく努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の情報を収集する段階で、充分にお話を聞くようにしている。また、入居された数日は御様子を家人に電話でお伝えし、安心していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族・職員が密に連携をとりながら、必要があれば介護用品のレンタル・往診の医師の紹介等の相談にのっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、利用者様と職員が協働する場面が多くみられる。また、新人職員を利用者様が励まし・応援する心温まる光景がみられた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院の定期受診はご家族が対応している。また、個々の誕生日には家人にも計画にはいってもらい、家族との絆を深める取り組みをしている。家族会の折り、協働で環境整備をおこなった。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家人・親戚・友人知人等、多くの方が面会に訪れる。職員はなじみの皆さんとゆっくりと過ごせるような環境づくりに努めている。	誕生日にケーキを持参して駆けつけてくれる昔からの知人を迎える利用者や近所の方が面会に来られる利用者もいる。受診の際に家族とともに馴染みの理髪店へ通う方もいる。身内の方が馴染みの店や食事処などに誘ってくれたり、お盆やお正月に日帰りで自宅へ帰る利用者もおり、ホームでは利用前からの関係性の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性・関係性をみながら席替え等の関わりをしている。日々の家事で利用者間の連携プレーがみられたり、お互いを気遣ったり、思いやる言葉が多く聞かれる。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先での生活が難しくなったり、退院後の受け入れ先がみつからない等の相談にのり、必要な支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	願いを叶えるホワイトボードを使って、利用者様の願・つぶやきを職員間で共有し、形にする取り組みを行っている。	殆どの利用者が言葉で意向を表すことができる。出しにくいような場合には表情や仕草で意思確認をしている。入居者のもらしたつぶやきや思いを具体的かつ即実行するために職員間で検討し「つぶやきを形に、願いを叶える」ホワイトボードを職員事務室に設置した。健康であっても何時どのようになるかもしれない高齢者の願いを大切に実現しようと食事作りなどの職員勤務時間を総体的に見直し個別支援の時間を生み出すことができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家人から聞き取った、なじみの暮らし方や生活歴を個人ファイルに綴り、職員間で把握・共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿って介護記録をつけ、それをもとにカンファレンスを行って、利用者様の現状の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスから課題を抽出し、担当ナースとも話し合って、ケアプランの原型を作り、家人に内容を説明、ご意見があればそれを盛り込んでプランを完成させている。	利用者の居室ごとの担当職員は決めている。今年から介護計画については管理者と計画作成担当者、准看護師が相談し立案している。職員会議の「15日会」でカンファレンスも開かれ、基本的には3ヶ月に1度の見直しであるが、状態変化が著しく見られない方については6ヶ月に1度となっている。家族への説明もされている。急変時にはバックアップ施設である同じ法人の看護師と相談しながら随時変更をかけている。	職員も定着しつつあることから利用者の担当制などを考え、職員の現場からの意見・提案などを計画作成に盛り込まれることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を元に月１回のカンファレンスで、情報を共有し検討をかさねて、プランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に住む、娘さんが訪ねてきた時は、ゆっくりと積もる話が出来るようご利用者様の居室に泊って頂いても良い旨をお伝えしている。また、御家族が受診の付き添いが出来ない時は、施設で対応する。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の複数のボランティアさんが定期的に訪れてハーモニカや紙芝居で楽しませてくれたり、行事の時は移動時の見守り等安全確保に役立っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院はあるが、それにとらわれず、本人・家族が希望される医師に受診または往診をしていただいている。	入居前からのかかりつけ医を継続している利用者が多い。ご家族から往診のできる医師をとの希望があれば町内の協力医を紹介している。通院や受診の付き添いは基本的には家族にお願いしており、緊急の場合には職員が付き添っている。バックアップ施設である同じ法人の看護師が週に1回来訪しており、2名の准看護師とともに協働している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、定期的に担当看護師が来設して利用者の健康管理を行っているが、当施設には2名の准看護師もおり、専門性をいかした情報や気づきを担当看護師に伝える事ができるため、利用者、職員の大きな安心になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は時々訪問して本人の状態をみながら、病院のソーシャルワーカーと密に連絡をとり、治療の経過や退院の見通しについて、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態の変化に合わせ、必要時は、医師・担当ナース・本人・家人で話し合って、今後の方針を決めている。	法人としての「重度化及び終末期に向けた指針」がある。開設後の2年あまりの間には直接の看取りはないが、家族の意思も確認し、看取りの体制をとりながら支援し続けた結果現在回復し元気になられた方がいる。往診ができる医師でまたその判断に負うところが大ではあるが、家族や医師と話し合いながら最大限の支援をすることを利用時に家族等に伝えている。バックアップ施設等で経験のある職員が数人おり若い職員へのフォローも怠りない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的に担当ナースに連絡をし、その指示で動くため、特別に訓練は行っていないが、緊急時のマニュアル・緊急連絡網を整備し、伝達訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月・11月には火災を想定した避難誘導訓練や8月は地震対応の訓練を行っている。運営推進会議で提案された消火のための、マンホールの確認や災害時の区との調整を進めていきたい。	年3回防災訓練を実施しており、うち1回は夜間想定で行ない、1回は消防署員の指導をいただいている。避難時には車椅子の利用者も含め全利用者が参加している。法人の防災管理担当者により法人内の各施設や事業所の巡回指導が行われているほか、毎月1回、伝言ダイアルでの通報訓練や消火器訓練などのミニ訓練も実施されている。運営推進会議でも防災上の課題点を明らかにし地区への協力も要請している。スプリンクラーや自動火災報知器等は設置されており、乾パンやおかゆ、缶詰なども備蓄されている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にある「心を温める一言」を職員間で共有し、日々の声かけにいかしている。	職員の言葉かけや態度は気長で、あくまでも待つ姿勢を貫き、利用者に対して敬意を払った接し方であった。職員は法人の「接遇チェックリスト」で半期ごとに接遇や人権意識についての自己チェックを行ない、自己採点後管理者あてに提出している。利用者への呼びかけについても利用開始時に家族とも相談し、尊厳を守るものにしている。利用者個々人に合わせ地域独特の言葉使いも交え、入居者からの言葉が出やすいように配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	機会あるごとに自己決定を促す声かけをしている。利用者様もご自分の思い・希望を職員に気楽に伝えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に起床・朝食は個人のペースを尊重している。入浴・外出の希望があれば、極力その都度希望に沿うように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	１日の中でもお出かけの時は、ちょっとおしゃれな服に着替えたり、男性はひげそりの促しや、お手伝いをして、身だしなみにきを配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ・盛り付け・片つけになるべく多くの利用者様が関われるように促している。特に利用者様が好きなコロッケやおはぎなどは利用者様が主導で、張り切って作っている。	殆どの入居者が自立しており介助することは少ない。場合によってトロミを加える方がいる。食事の準備や後片付けなど、入居者の方もできる範囲で手伝っており、時には職員に指示するような場面も見られた。コロッケやおはぎづくりなど昔から馴染んだ料理で腕を発揮する利用者もいる。職員の中に調理担当者がおり、食事のメニューを立て朝食と昼食を専門に作っている。プランターで育てたキュウリやミニトマト、ネギ、パセリ、枝豆などが食卓に上ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に問題があれば担当ナースと相談し、食形態や食事内容を検討している。水分もカウンターにお茶のポットを常備していつでも水分を摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日中は必要な方以外は口腔ケアの促しをし、夕食後は、職員が一人ひとりに関わって丁寧に口腔ケアをおこなっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングの良い声かけや、トイレ誘導でおむつの使用を減らすように努めている。	殆どの方がなんらかの介助を必要としており、排泄パターンに沿って定時誘導し、できるだけトイレで排泄できるように支援している。利用者の経費負担を少なくするために幅広のパットとリハビリパンツまたは布パンツを組み合わせるなど一人ひとりに合わせ支援している。歩行がゆっくりでトイレまでの時間がかかる方にはポータブルトイレを準備している。人前で失敗したような時には職員がそれとなくトイレや居室に誘導し着替えなどをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために、毎朝のプルーンと、中庭歩行運動の両面から取り組んでいる。また排便チェックを行い、早めにナースに相談し便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則は一人週2回のペースだが、希望があれば、これを超えて対応している。また、必要であれば毎日入浴している方もいる。	入浴の際には殆どの方が見守りを必要としており、一部介助が必要な方もいる。入浴を拒否する方もいるが時間を置いたり、担当者を替えたりして気分を変えるような工夫もしている。バックアップ施設の同じ法人が運営する老人保健施設の大きなお風呂に出掛け温泉気分で湯船に浸かることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は体調をみながら、休息をとっていただいている。清潔でお日様の匂いがする寝具・あかり・室温など環境を整え、気持ち良く休めるよう気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬は2名の準看護師が担当しており、服薬管理には細心の注意をはらっている。症状に変化があれば速やかに医師・担当ナースに連絡・相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活を通して自然に個々の役割ができている。「これは自分でなきゃ」とアピールする事もある。また、毎週水曜日はお出かけの日で、あちこちに出かけ、気分転換をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お出かけの日以外でも、個人的な買い物に職員とでかけたり、家人と自宅や親戚に出かけたりしている。特に通院時は家人と食事をしたり絆を深める良い機会になっている。	年間の行事予定の中に外出行事も沢山組まれている。毎週水曜日を「お出かけの日」とし、ユニットごとに花見や外食などに出掛けている。ホームの食材の買出しに近くのスーパーやコンビニへ交替で出掛けたり、個別の買い物などにも職員同伴で外出している。ウッドデッキに面して中庭が広く、日常的に外気に触れたり、プランターの野菜、ブルーベリーやブラックベリーの収穫などもしている。ホーム周辺の農道を散歩する利用者もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は利用者様がお金に触る機会はありませんが、個人的な買い物に出かけたときに、たまにご本人に支払ってもらう事があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人に電話したいご希望があれば、ご自分で事務室から電話をかけていただいています。また、絵手紙教室に参加している利用者様は、ご自分で書いた絵手紙を家人に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適環境を保てるよう努めている。また、お花や飾り等で季節を感じられるよう配慮している。	玄関を入ると地区の文化祭に出品する予定の押し花のタペストリーが目に入り、マッサージ器も置かれている。ロール式のカーテンの下がる大きな窓から陽射しが入りリビングは明るく眺めも良い。リビングには小人数用のテーブルやソファー、テレビなとがゆったりと配置されている。洗面台も広く、今年度から口腔ケアにも力を入れているという話の通り、昼食後、職員の指導を受けながら利用者が歯磨きにいそしんでいた。厨房も広く、本来はそのスペースで食事も摂れたのではないかと思うほどゆったりとした広さがある。床暖房やエアコンが設置されているので快適な環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じ、スクリーンを使って、小さな空間を作って対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に入居時に、ご本人の居間をそのままこちらに移してくださいとお願いしている。馴染みのある家具・身の回り品をもってきていただいている。	居室の入り口には花の名前が書かれた表札や職員の手による額入りの切り絵、家族の作った手芸品などが目印として飾られている。居室の中にはクローゼットがついており整理整頓が行き届いている。畳を入れ布団を使用している方がいたり、箪笥やベッド、テレビなどが置かれている居室など一人ひとりに合わせ工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を横出しにしたり、居室の入り口にご本人に自室と解かる目印をつけて、迷わない工夫をしている。		